

近代英語協会第 27 回大会

日時：2010 年 5 月 28 日（金）

場所：京都大学附属図書館 3 階 ライブラリーホール

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL：075-753-7531（代）

受付開始 9：10

開会の辞 9：50－10：00

会長 広島女学院大学教授 米倉 綽

シンポジウム 10：00－12：00

「there 構文の史的発達」

司会

聖徳大学教授 藤原保明

講師 「there 構文の史的発達の要因」

聖徳大学教授 藤原保明

講師 「Existential There の Nominalization について」

摂南大学准教授 家口美智子

講師 「there 構文の非対格性」

長崎大学教授 西原俊明

昼食・総会 12：00－13：15

研究発表

第一部 13：15－14：35

司会 愛知学院大学准教授 前田 満

1. 「Reek の deterioration: Shakespeare の Sonnet 130 を例として」

津田塾大学大学院 磯崎聡子

2. 「シェイクスピアにおける法助動詞 SHALL/SHOULD、WILL/WOULD の意味と機能」

浜松医科大学准教授 中安美奈子

休憩 14：35－14：45

第二部 14：45－16：05

司会 慶應義塾大学教授 児馬 修

1. 「派生接頭辞の範疇選択特性に関する考察」

筑波大学助教 長野明子

2. 「英語人称詞縮約の通時的変遷と通言語的異質性について—一人称詞を事例として—」

沖縄国際大学准教授 柴崎礼士郎

休憩 16：05－16：15

第三部 16：15－18：15

司会 関西外国語大学教授 菊池繁夫

1. 「ME から ModE における説得の技法」

埼玉学園大学准教授 片見彰夫

2. 「綴り字改革運動を支持した 19 世紀の言語学者たち」

京都府立大学准教授 山口美知代

3. 「陥穽—英語学における—では？」

元神戸学院大学教授 菅沼 惇

閉会の辞 18：15－18：25

京都大学准教授 家入葉子

懇親会 18：50－20：20

会場：カフェレストラン カンフォーラ